

工場などの敷地内を自律走行。カメラで常時360°撮影し、不審者の侵入などを遠隔監視

屋外自律走行監視ロボット<SV-S500>を米国で発売

シャープは、工場や倉庫などの広い敷地内を自律走行し、本体に搭載したカメラで周囲360°を常時撮影、不審者の敷地内への侵入などを遠隔監視できる車型の屋外自律走行監視ロボット<SV-S500>を本年6月に米国で発売。同国の大手警備会社 U. S. Security Associates^{※1}に納入しました。

本機は、GPSを利用して現在地を把握しながら、あらかじめ設定された巡回ルートを時速約5km^{※2}で自律走行します。本体前方のPTZ(パン・チルト・ズーム)カメラ^{※3}と前後左右に搭載された4台の広角カメラで本体の周囲360°を常時撮影。映像をリアルタイムで監視ルームに送るので、警備員は監視ルームから敷地内の様子を遠隔監視し、不審者の侵入やフェンスの破損などの異常を確認することができます。固定監視カメラでは把握しづらい障害物の陰なども確認でき、巡回警備の負荷低減に寄与します。さらに、本体にはスピーカーとマイクを搭載。不審者発見時には、監視ルームから問いかけたり、不審者の声を聞き取ったりできるほか、サイレンを鳴らすことも可能です。

また、本機には、一定距離内の人や物を検知すると自動減速または停止するなど、様々な安全設計が施されています。さらに高温や低温環境、降雨時におけるこれら性能の維持が確認され、パーソナルケア(生活支援)ロボットの安全性に関する国際規格「ISO 13482」の認証を取得^{※4}しました。

今後、警備会社をはじめ、工場や倉庫、データセンター、空港や湾岸設備など、広大な敷地を有する企業や施設への提案を進め、警備コストの低減や警備の質の向上に貢献してまいります。

品名	屋外自律走行監視ロボット
形名	SV-S500
仕向地	米国
発売	2017年6月

■ 主な特長

1. GPSで現在地を把握しながら、設定された巡回ルートを自律走行
2. PTZカメラおよび前後左右の広角カメラで周囲360°を常時撮影、遠隔監視が可能
3. パーソナルケアロボットの安全性に関する国際規格「ISO 13482」の認証を取得

※1 本社：米国 ジョージア州。全米に160カ所以上の拠点を展開。

※2 走行環境や周囲の状況により変動します。

※3 レンズを上下左右に動かし、ズームの撮影も可能なカメラ。

※4 ISO 13482 Robots and robotic devices : Safety requirements for personal care robotsは、2014年に国際標準化機構 (ISO) が発行したパーソナルケア(生活支援)ロボットの安全性に関する国際規格です。本機は、一般財団法人日本品質保証機構の評価を経て認証を取得しました。

本製品に関する情報は、以下のウェブサイトでもご覧いただけます。(英語)
<http://www.sharpintellos.com/>

■ 仕様

形 名	SV-S500
外 寸	昇降するアーム部分・格納時：幅860 × 奥行1,470 × 高さ1,310 mm(突起物除く) 昇降するアーム部分・上昇時：高さ1,760 mm
質 量	約210kg(バッテリー含む)
電 源	リチウムイオンバッテリー
駆 動 装 置	4輪駆動走行制御
走 行 能 力	最高速度 時速約5km 舗装または非舗装エリア(70mmまでの凹凸)を走行 定置回転対応
搭 載 カ メ ラ	標準搭載：広角カメラ(4台)、PTZカメラ(1台) オプション：サーマルカメラ
安 全 機 能	一定距離内に人や物が近づいた場合：センサー検知により減速/停止 接触センサーで検知した場合：電源供給遮断により停止



シャープ 屋外自律走行監視ロボット
<SV-S500>